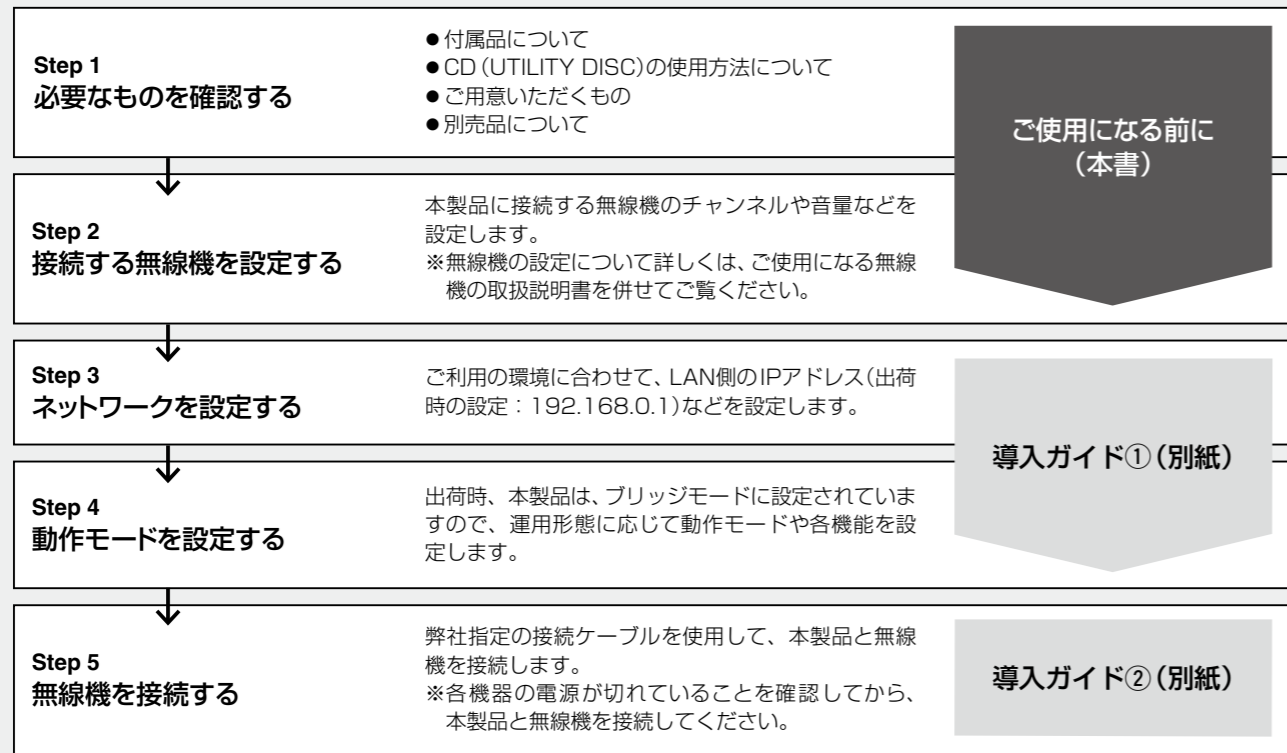


このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、弊社製無線機をVoIPネットワークに融合するコンバーターユニットです。
本書では、基本的な設定を説明しています。
本書をお読みいただく前に、別紙の「ご注意と保守について」をよくお読みいただき、本製品を正しくご使用ください。

ご使用までの流れ

本製品を設定されるときは、次の手順にしたがってお読みください。



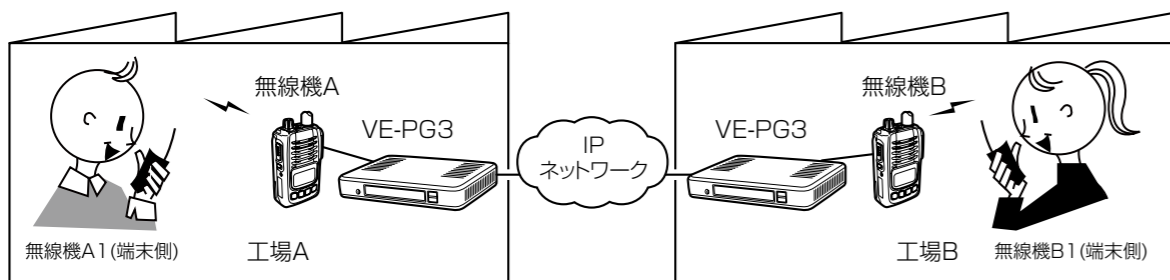
ご使用になる前に
(本書)

導入ガイド①(別紙)

導入ガイド②(別紙)

【本製品の動作モードについて】

- ◎ブリッジモード(出荷時の設定)：IPネットワークを介して無線機同士で通話する場合に設定します。
- ◎コンバーターモード：弊社製のIP電話機と無線機で通話する場合に設定します。



ブリッジモード(イメージ図)

(各機能の詳しい設定などについては、弊社ホームページに掲載の取扱説明書をご覧ください。)

RS-PG3(監視ツール)について

本製品に接続された無線機の設置場所には、無線機の送信状態などを監視する管理者が必要です。
設置した場所に管理者がない状態でご使用になるときは、本製品と同じネットワークに接続されたパソコンからRS-PG3を起動して、監視できる環境を構築してください。
使用方法については、付属CDに収録されている説明書をご覧ください。

Step 1 必要なものを確認する

付属品について

- ACアダプター …… 1
- フェライトコア …… 1
- ビス(4本)*1 …… 1
- ご注意と保守について
- 導入ガイド①
- 保証書
- クッションシート …… 1
- コネクター(補修用) …… 24
- CD (UTILITY DISC)
- ご使用になる前に(本書)
- 導入ガイド②

★1 弊社別売品のMB-99A(壁面取付プレート)で使用するビスです。
取り付け方法など、詳しくはMB-99Aの取扱説明書をご覧ください。

CDの収録内容について

- ◎ RS-PG3(監視ツール)*2
 - ◎ RS-PG3インストールガイド(PDFファイル)
 - ◎ RS-PG3取扱説明書(PDFファイル)
 - ◎ Virtual Serial Port(仮想シリアルポート)*2
 - ◎ Virtual Serial Port取扱説明書(PDFファイル)
 - ◎ Adobe® Reader®(インストーラー)
- ★2 ご使用になる前に、CDに収録されている説明書をよくお読みいただき、動作環境や注意事項などをご確認ください。

ご用意いただくもの

- 設定用パソコン
- アース線
- 弊社製無線機*4
- 弊社製VoIPルーター*5
- LANケーブル
- HUB*3
- ご使用になる無線機の取扱説明書

★3 本製品は、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)の自動判別機能に対応していますので、HUBをお持ちでない場合でも、LANケーブルで本製品とパソコンを直接接続できます。

★4 接続ケーブルなど、本製品と無線機を接続するときに必要な弊社別売品については、下記一覧をご覧ください。

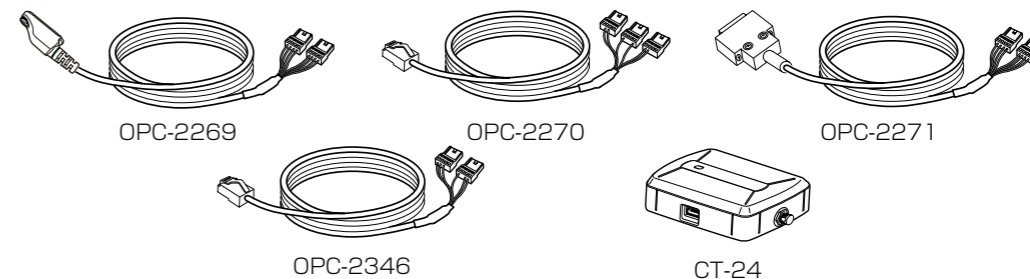
★5 本製品をコンバーターモードでご使用になる場合に必要です。

別売品について

(2014年10月現在)

本製品に接続する無線機により接続ケーブルなど、必要な弊社別売品が異なりますのでご注意ください。

- OPC-2269 携帯機接続ケーブル(約5m) (対応無線機：IC-4800、IC-4810、IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6)
- OPC-2270 車載機接続ケーブル(約5m) (対応無線機：IC-D5005、IC-DPR1)
- OPC-2271 車載機接続ケーブル(約5m) (対応無線機：IC-MS4880)
- OPC-2346 車載機接続ケーブル(約5m) (対応無線機：IC-MS5010)
- AD-107H*6 外部電源装置 (対応無線機：IC-4800、IC-4810、IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6)
- CT-24*7 DIGITAL VOICE CONVERTER (対応無線機：IC-DU5505CN、IC-DU6505BN、IC-D6005N)
- MB-99A*8 壁面取付プレート



- ★6 本製品に接続する携帯機の電源は、弊社指定のものをご使用ください。
バッテリーパック、または電池ケースで携帯機を運用すると、本製品が誤動作する原因になります。
- ★7 本製品に接続された機器や使用する音声Codecの組み合わせにより、CT-24が必要になります。(裏面参照)
- ★8 本製品を壁面や棚などに固定するときは、弊社指定のものをご使用ください。

別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。
弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じるネットワーク機器や無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

Step 2 接続する無線機を設定する

【ご注意】 無線機を本製品に接続する前に、無線機の設定を完了しておいてください。

対応無線機について

(2014年10月現在)

本製品に接続できる弊社製無線機は、下記のとおりです。

※相互使用できる端末側無線機については、ご使用になる無線機の取扱説明書をご覧くださいか、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- デジタル簡易無線機(登録局) : IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6、IC-D5005、IC-DPR1、IC-D6005N*
- デジタル簡易無線機(免許局) : IC-DU5505CN*、IC-DU6505BN*
- 特定小電力 : IC-4800、IC-4810
- 特定小電力(同時通話型) : IC-MS4880、IC-MS5010

★印は、本製品で使用できるネットワーク対応のデジタル無線機です。

無線機の設定について

本製品に接続する無線機を下表のように設定します。

※通話チャンネル、トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)、個別呼び出し機能については、端末側無線機も同じ設定をしてください。

無線機の設定について詳しくは、ご使用になる無線機の取扱説明書を併せてご覧ください。

設定項目	製品名		デジタル簡易無線機(登録局)				
	IC-4800	IC-4810	IC-D50	IC-D60	IC-DPR5	IC-DPR6	IC-D5005
通話チャンネル	単信1~20の任意		1~14、16~30の任意				
音量	8	12	5			7	
トーンスケルチ/ ユーザーコード(UC)	トーンスケルチを使用		ユーザーコード(UC)を使用				
ポケットビープ(PB)	ポケットビープ OFF						
個別呼び出し機能	個別呼び出し機能 OFF						
パワーセーブ機能	パワーセーブ機能 OFF						-

設定項目	製品名		特定小電力無線機(同時通話型)	
	IC-MS5010		IC-MS5010	
単信/半復信	Sc-47			
BUSY出力設定	bu-AM (SQL対応のため)			
音量(Vol)	7 (つまみで設定)			
ポケットビープ(PB)	ポケットビープ OFF			
個別呼び出し機能	個別呼び出し機能 OFF			

○通話音質に影響しますので、本製品に接続する無線機は、上表の値を基準に設定してください。

○予期しない外来雑音やほかの無線機の信号で誤動作しないように、端末側無線機も同じトーンスケルチ/ユーザーコード(UC)を設定してください。

○無線機のビープ音で本製品が誤動作しないように、本製品に接続する無線機は、ポケットビープをOFFに設定してください。

○本製品のポート(TRX1、TRX2、EXT1、EXT2)は、個別呼び出し機能に対応していませんので、本製品に接続する無線機、端末側無線機とも個別呼び出し機能をOFFにしてください。

○通話開始時の頭切れを軽減させるため、パワーセーブ機能をOFFにしてください。

○VE-PG3では、複信モードに設定されたIC-MS5010は動作保証対象外になります。

IC-MS4880をご使用になる場合

本製品にIC-MS4880を接続して使用する場合は、IC-4880以外の無線機と混在して運用できません。

IC-MS4880の設定や接続方法、運用上の注意事項については、弊社ホームページに掲載の取扱説明書をご覧ください。

デジタル無線機をご使用になる場合

本製品にデジタル無線機をネットワーク接続して使用する場合は、販売店へ無線機の設定をご依頼いただき、免許の範囲内で通信してください。

なお、本製品に接続された機器や使用する音声Codecの組み合わせにより、CT-24が必要になります。

○コンバーターモード : デジタル無線機を使用する場合

○ブリッジモード : デジタル無線機を接続し、G.711uコーデックを使用する場合

デジタル無線機以外(無線機や外部入出力など)を接続し、AMBE+2コーデックを使用する場合

※デジタル無線機の設定やCT-24の接続方法、運用上の注意事項については、弊社ホームページに掲載の取扱説明書をご覧ください。

【ご注意】 本製品に無線機を2台以上接続する場合、無線機同士の電波干渉を防ぐため、下記を参考に通話チャンネルを設定し、無線機同士の距離(携帯機)やアンテナの設置場所(車載機)が近すぎないように設置してください。

無線機のチャンネル設定と設置距離について

本製品に無線機を2台以上接続する場合、チャンネル間隔、アンテナ間距離について、どちらも大きくはなすことにより、無線機の相互干渉による影響を低減できます。

	IC-D50/IC-D60 IC-DPR5/IC-DPR6 IC-D5005/IC-DPR1	IC-4800/IC-4810 IC-MS4880/IC-MS5010
IC-D50/IC-D60 IC-DPR5/IC-DPR6 IC-D5005/IC-DPR1	推奨チャンネル間隔 : 10チャンネル以上 推奨アンテナ間距離 : 5m以上	推奨アンテナ間距離 : 3m以上
IC-4800/IC-4810 IC-MS4880/IC-MS5010	推奨アンテナ間距離 : 3m以上	推奨チャンネル間隔 : 5チャンネル以上 推奨アンテナ間距離 : 3m以上

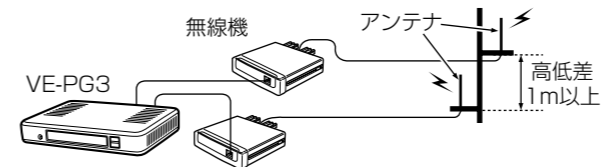
電波干渉の低減について

本製品に無線機を2台以上接続する場合、無線機の相互干渉により通信性能が劣化することがありますので、下記の方法により電波干渉を低減させてください。

アンテナの指向性を活用する

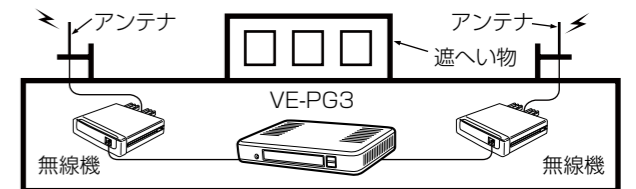
水平面に対して指向特性がない無指向性アンテナでも、垂直方向は電波が弱くなります。

2本のアンテナを固定する位置に高低差(1m以上)をつけることで、電波干渉が低減することがあります。



周囲の遮へい物を利用する

金属補強材が埋め込まれたコンクリート壁や金属製のロッカーなどで、互いのアンテナを遮るような位置に設置すると、電波干渉が低減することがあります。



Lowパワーに設定する(無線機の送信出力を変更できる場合)

アンテナの設置場所を変更しても電波干渉が低減しない場合、本製品に接続する無線機の送信出力をLowに設定すると、電波干渉が低減することがあります。

ただし、Lowパワーに設定すると、電波の届く範囲が狭くなり、場所によっては交信しにくくなる場合があります。

別紙の「VE-PG3導入ガイド①」につづく➡

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

高品質がテーマです。

A-7048W-2J-② Printed in Japan © 2012-2014 Icom Inc.